

## 第6回クールジャパン戦略会議

日時：令和8年3月19日（木） 17時28分～17時54分

場所：中央合同庁舎8号館 8階特別大会議室

出席：

### 【議長】

小野田 紀美 内閣府特命担当大臣（クールジャパン戦略）

### 【構成員】

古川 直季 内閣府大臣政務官（地域未来・地方創生）

井上 学 内閣官房国際博覧会推進本部事務局次長

堀内 詔子 総務副大臣

三谷 英弘 法務副大臣

大西 洋平 外務大臣政務官

高橋 はるみ 財務大臣政務官

小林 茂樹 文部科学副大臣

山下 雄平 農林水産副大臣

小森 卓郎 経済産業大臣政務官

上田 英俊 国土交通大臣政務官

### 【事務局】

内閣府知的財産戦略推進事務局 中原 裕彦 事務局長

守山 宏道 次長

1. 開会
2. コンテンツ地方創生拠点の選定について
3. 関係省庁の取組について
4. 意見交換
5. 閉会

○守山内閣府知的財産戦略推進事務局次長 それでは、定刻よりも少し早い時間ではございますが、皆様おそろいでございますので、第6回「クールジャパン戦略会議」を開始させていただきます。よろしくお願いいたします。

本日は御多忙のところ御参集いただき、誠にありがとうございます。

私、議事進行を務めます内閣府知的財産戦略推進事務局次長の守山でございます。

初めに、議長であります小野田内閣府特命担当大臣クールジャパン戦略担当から御挨拶をお願いいたします。

○小野田内閣府特命担当大臣（クールジャパン戦略） お疲れさまです。

本日、本当に御多用のところ、各省庁の副大臣、政務官の皆様におかれましては、この戦略会議に御出席いただきまして誠にありがとうございます。

2024年6月、知財本部で決定した「新たなクールジャパン戦略」では、クールジャパン関連産業の海外展開を2033年までに50兆円とする目標を掲げ、各省庁において様々な取組を実施していただいております。

昨年、決定した「知的財産推進計画2025」では、コンテンツ産業と地域経済の活性化の好循環を目指す、地域一体となった取組について、2033年までに全国約200か所を選定し、成功事例の輩出・共有を進めることとしております。

本日、まず、2025年度コンテンツ地方創生拠点の選定を行います。その後、「コンテンツ地方創生拠点」の活性化に向けた取組をはじめ、各省庁の取組を共有していただければありがたいと思います。

クールジャパン戦略の推進に当たっては、各省が連携して政府一体となって実行していくことが重要でございまして、本日の議論を踏まえて取組強化につなげていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○守山内閣府知的財産戦略推進事務局次長 ありがとうございます。

それでは、議題に移りたいと思います。

議事1「コンテンツ地方創生拠点の選定について」、内閣府知的財産戦略推進事務局中原事務局長から説明させていただきます。資料1を御覧ください。

○中原内閣府知的財産戦略推進事務局長 知的財産戦略推進事務局の中原でございます。どうかよろしく願い申し上げます。

資料1を御高覧いただければと思います。

1 ページ目を御覧ください。

昨年、知的財産戦略本部で決定されました知的財産推進計画2025におきまして、コンテンツを起点とする経済波及効果の大きい、地域一体となった取組について、クールジャパン戦略会議において「コンテンツ地方創生拠点」として、2033年までに全国約200か所の選定を目指し、地域経済の活性化を図ることとされており、骨太の方針にも同様の記載がございます。

2 ページ目を御高覧ください。

中央にあります図が、コンテンツと地方創生の好循環のイメージになります。クールジャパン戦略会議で選定した「コンテンツ地方創生拠点」に対しまして、関係省庁の施策を総動員して全国各地の回遊等を促進することで、地域活性化、コンテンツ産業の振興、オーバーツーリズムの解消などに貢献していくということとしております。

3 ページ目を御高覧ください。

応募状況としましては、本年度、全国各地から50件の応募がございました。連携するコンテンツのジャンルは、複数のジャンルを扱う場合もありますので、カウントの重複はございますが、アニメが30件、漫画が19件、ゲームが15件、実写が11件、音楽が8件と

なりました。

そして、3つの類型で応募をいただきました。

まず、下の一番左にあります①は、様々な地域資源とコンテンツの魅力との掛け合わせによりまして、地域の魅力に新たな価値を創造する「コンテンツ観光振興型」でございますが、ここにつきまして26件の応募。

②は、地域発のコンテンツ創造、クリエイター育成や事業創出など、コンテンツ産業の集積を行う「コンテンツ産業振興型」で13件の応募。

そして、③は、①と②の要素を併せ持つものでございますが、この複合型で11件の応募がございました。

拠点候補の選出に当たりましては、有識者の皆様に御審査いただきまして、コンテンツ関係者との協力関係、地域一体となった体制といった「連携体制」が構築されているかどうか、コンテンツの魅力との掛け合わせによる地域資源の体験価値化・高付加価値化の取組の工夫と効果、人材育成等のコンテンツ産業の振興の取組と効果、そして、取組の継続性、国内外への情報発信などの観点からその審査を行っていただきました。

4ページを御高覧ください。

コンテンツ観光振興型は、福島県須賀川市、東京都豊島区、山梨県身延町ほか峡南地域、岐阜県多治見市、静岡県浜松市、沼津市、鳥取県北栄町、香川県土庄町、熊本県、大分県の10件の候補が選出されました。

5ページ目を御高覧ください。

コンテンツ産業振興型では、札幌市、仙台市、東京都竹芝のCiP協議会、群馬県、高知県、福岡市、熊本県天草市の計7件。

複合型では、新潟県、静岡市、京都市、鳥取県、広島県尾道市、北九州市の6件の候補が選出されました。

説明は以上でございます。

○守山内閣府知的財産戦略推進事務局次長 議長、よろしくお願いたします。

○小野田内閣府特命担当大臣（クールジャパン戦略） ただいま御説明いただきました、コンテンツ地方創生拠点選定候補案23の拠点を「コンテンツ地方創生拠点」として選定することといたしたいと思いますが、御異議はございませんでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

○小野田内閣府特命担当大臣（クールジャパン戦略） ありがとうございます。

それでは、本案について御了承いただいたものとさせていただきます。

○守山内閣府知的財産戦略推進事務局次長 なお、選定結果につきましては、本日、内閣府のホームページに掲載させていただきます。

続きまして、議事の2番目「関係省庁の取組」に移らせていただきます。

順次御説明をお願いしたいと思います。最初に、「コンテンツ地方創生拠点」に対する戦略的な連携を行う御予定の文部科学省、経済産業省、国土交通省より御発表いただきま

す。文部科学省、小林副大臣、お願いいたします。

○小林文部科学副大臣 お手元の資料2の1ページ目を御覧ください。

コンテンツ海外売上を2033年までに20兆円とする目標の達成に向けて、文部科学省としては、文化庁を中心に以下の4点に取り組んでまいります。

まず①、クリエイター支援基金を通じた人材育成。

そして、右側、海賊版対策や生成AIへの対応を含むクリエイターの権利保護。

そして、漫画、アニメ等、コンテンツ文化の保存・活用。

そして最後に、芸術教育・子供の文化体験であります。

2ページ目を御覧ください。日本博でございます。

日本博は「日本の美と心」をテーマに、主に大阪・関西万博をターゲットとして、日本各地の様々な文化資源を活用した多彩な事業を実施し、訪日機運の醸成やインバウンドの地方誘客に大きく貢献をしております。

右下にありますのは「ソフトパワーで日本の心を発信」。「進撃の日田フェスタ」と書いていますが、作者の諫山創さんがこの日田市出身ということでございました。

本日決定された「コンテンツ地方創生拠点」とも連携をしながら、クールジャパン戦略への貢献を進めてまいります。

以上です。

○守山内閣府知的財産戦略推進事務局次長 ありがとうございます。

次に、経済産業省、小森政務官、お願いいたします。

○小森経済産業大臣政務官 小森でございます。

資料3を御覧いただきながら、経済産業省の取組について御報告いたします。地方創生の取組と、引き続いてクールジャパンの取組も御説明いたします。

2ページを御覧ください。地方におけるロケ誘致の推進についてです。

令和7年度補正予算では、支援制度を複数年化し、補助上限も引き上げております。また、併せて、関係の9省庁に対しまして、採択案件に関する情報共有、そして、撮影の許認可手続への適切な対応をお願いしております。

さらに、昨年、東京国際映画祭におきましては、地方のフィルムコミッションに対する経済産業大臣賞を新設いたしまして、授賞式を実施したところでございます。

引き続き、クールジャパン50兆目標に向けた取組について、何点か申し上げます。

3ページを御覧ください。コンテンツでございます。

政府としては、2033年にクールジャパン関連産業の海外展開を50兆円、このうち、コンテンツにつきましては、海外売上高を20兆円とする目標を掲げております。この目標の達成に向けまして、令和7年度補正予算につきましては、政府全体で倍増していただき、経産省としても3.5倍の350億円に拡大しているところでございます。

引き続き、国際競争に負けないよう、大規模・長期・戦略的な支援を進めてまいります。

続いて、4ページを御覧ください。今度はファッション分野になります。

ファッションの海外売上は増加傾向でございまして、今後は、国内で最終製品まで作る中小ブランド等の高付加価値化、そして、海外展開が一層重要になるところでございます。

5 ページを御覧ください。今回は化粧品分野でございます。

化粧品産業では、海外市場でのシェアの低下が続いております。当省の検討会において、海外シェア拡大に向けた議論を進めております。

また、国内規制と諸外国の規制とのイコールフットイングについて、厚生労働省において御対応いただいていると承知しております。

最後、資料の6 ページ目でございます。海外需要開拓支援機構、いわゆるクールジャパン機構でございます。

官民ファンドとして、民業補完に徹しながら、民間だけでは十分に資金が供給されない分野に対しまして、呼び水となるリスクマネー供給等の支援を行っているところでございます。

結びでございますけれども、これらの取組を着実に進めていくためには、関係省庁の皆様と密な連携が重要と考えておりますので、ぜひとも、また御理解、御協力をお願いいたしますよう、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○守山内閣府知的財産戦略推進事務局次長 ありがとうございます。

次に、国土交通省、上田政務官、お願いいたします。

○上田国土交通大臣政務官 国土交通大臣政務官の上田でございます。よろしくお願いたします。

国土交通省・観光庁の取組を説明させていただきます。

まず、資料4の1 ページ目を御覧ください。昨年のインバウンドの状況を御説明いたします。

昨年の訪日外国人旅行者数は約4268万人と初めて4000万人を突破し、過去最高となっております。

また、消費額も過去最高の9.5兆円と推計されており、コロナ禍前の約2倍となっております。

2 ページ目を御覧ください。

クールジャパン戦略に関連する観光庁の事業を御説明いたします。

観光庁においては、持続可能な観光の実現に向けて、日本政府観光局を通じて、我が国の多様な魅力を海外に発信し、インバウンド市場の多様化を後押ししております。

このほか、観光需要を分散させるため、観光コンテンツの造成に対する支援も行っております。

具体的には、ロケ地を活用した特撮の体験など、歴史、食、自然、文化等の多様な地域資源を発掘し、磨き上げる取組に対し支援を行っているところであります。

さらに、地域資源を活用した観光まちづくりの推進にも取り組んでおり、アニメなどの

ゆかりの地における展示施設の整備等に対して支援を行ってまいりました。

今後とも、「コンテンツ地方創生拠点」に関連する取組であるか否かも勘案しながら、支援事業の採択を行ってまいりたいと考えております。

3 ページ目を御覧ください。

現在、観光庁においては、来年度からの5か年の観光政策の基本方針を定めるため、第5次観光立国推進基本計画の策定を進めております。

現在の計画案では「インバウンドの戦略的な誘客と住民生活の質の確保との両立」を施策の柱として掲げており、その一環として、「地方誘客及び消費拡大の効果の高い観光コンテンツの充実」を推進することとしています。

今後とも、この計画の内容に基づいて、観光コンテンツの造成や観光まちづくりの取組に対する支援を通じて、地方誘客を促進することにより、持続可能な観光の実現に取り組んでまいります。

以上でございます。

○守山内閣府知的財産戦略推進事務局次長 ありがとうございます。

ここからは、新たなクールジャパン戦略の目標達成に向けて、関係省庁から取組の御発表をお願いしたいと考えております。

放送コンテンツの分野に関しまして、総務省より御発表いただきます。総務省、堀内副大臣、お願いいたします。

○堀内総務副大臣 総務副大臣の堀内詔子です。

総務省の取組について、資料5に沿って説明させていただきます。

表紙をおめくりいただき、1 ページ目を御覧ください。

総務省では、放送番組や配信サービスにおけるドラマなどの実写コンテンツの製作力強化と海外展開推進に取り組んでいます。「放送・配信コンテンツの製作力強化・海外展開推進パッケージ2.0」として、令和7年度補正予算は28.3億円を計上しており、令和8年度予算案では2.6億円を計上しているところでございます。

総務省の予算事業は、放送・配信コンテンツの企画・開発から製作、権利処理、流通に至るまで、それぞれの段階における課題の解決を行うとともに、人材育成やDXの推進により、共通の課題の解決を図っていくこととしております。

2 ページ目を御覧ください。

本年1月からは、我が国の放送・配信コンテンツの製作力強化と海外展開を官民で推進するため、様々な民間事業者や政府機関の参加を得て「実写コンテンツ展開力強化官民協議会」を開催しております。

この官民協議会におきましては、製作当初から海外展開を前提としたコンテンツの製作や、官民によるコンテンツ投資促進の重要性などについて議論がされているところでございます。

今後、実写コンテンツの展開力強化に向け、さらに放送・配信分野で求められる取組と、

官民の役割分担などを議論した上で、アクションプランとして取りまとめていく予定です。  
以上です。

○守山内閣府知的財産戦略推進事務局次長 ありがとうございます。

次に、農林水産物・食品分野について、農林水産省、財務省より御発表いただきます。  
最初に、農林水産省、山下副大臣、お願いいたします。

○山下農林水産副大臣 農林水産省の副大臣、山下雄平です。

農林水産省では、輸出拡大などを通じた「海外から稼ぐ力」の強化に取り組んでおります。

農水省の資料は、資料6でございまして、まず1ページ目を御覧ください。

農林水産省は、農林水産物・食品の輸出額2030年5兆円という目標を掲げておりまして、その達成のために、日系スーパーなどにとどまらず、現地系スーパーやレストランなどの現地商流の開拓が重要だと考えております。

農林水産省では、10か国・地域、16拠点において、ジェトロ、JF00D0、在外公館を主な構成員とする「輸出支援プラットフォーム」を設け、ローカルスタッフによる現地人脈・ネットワーク構築であったり、食品規制などの専門家の活用の推進などを通じて、輸出拡大余地の大きい現地系商流への売り込みを強化してまいります。

また、外食など食品関連事業者の海外展開に向けた投資可能性調査の支援、海外展開に関する専門家の配置などを通じて、食品関連産業の海外展開を支援してまいります。

続いて、2ページ目を御覧ください。

農山漁村に滞在し、食事や体験を楽しんでいただく「農泊」に取り組んでいる地域に対し、食に特化した高付加価値コンテンツの造成を支援してまいります。

また、訪日外国人に魅力ある食や食文化体験を提供する地域を農林水産大臣が「SAVOR JAPAN」地域として認定しておりまして、現在、46ある認定地域の情報発信の強化にも取り組んでまいります。

さらに、インバウンドによる食関連消費額の拡大及びさらなる輸出拡大のため、日本で流通している食品に関する、成分やハラル認証などの情報を積極的に発信する取組を支援してまいります。

農林水産省としては、関係省庁と連携しながら、引き続き取組を着実に進めてまいりたいと思っております。

以上です。

○守山内閣府知的財産戦略推進事務局次長 ありがとうございます。

次に、財務省、高橋政務官、お願いいたします。

○高橋財務大臣政務官 財務省でございます。

クールジャパン関連産業の海外展開規模50兆円への拡大に向けて、農林水産物・食品の輸出や、インバウンドの消費の拡大が大変重要と認識しております。財務省・国税庁から、所管物資である日本産の酒類に係る取組について、資料7に基づき御説明いたします。

1 ページを御覧ください。

まず、輸出の現状についてであります。日本産酒類に対する国際的な評価の高まりを受け、昨年の輸出金額は1495億円となり、過去最高額を記録しております。

2 ページ目であります。

クールジャパン戦略も踏まえて、日本の「伝統的酒造り」のユネスコ無形文化遺産への登録を目指してまいったところでありますが、令和6年12月にこれが実現いたしました。こうしたことを好機と捉え、大阪・関西万博での「伝統的酒造り」のPRブースの設置とか、また、国際線航空機シートモニターへの広告出展など、様々な周知広報事業を実施してまいりました。

今後引き続き、「伝統的酒造り」を生かした取組を進めてまいります。

3 ページであります。

個々の酒類事業者による意欲的な取組についても支援しております。

例えば、SDGsに基づいたグローバル展開用商品の開発とか、また、インバウンドを取り込むための酒蔵ツーリズムの取組といった、酒類事業者による海外展開などに向けた取組を支援しております。

4 ページ目であります。酒類の地理的表示、いわゆるGIへの指定状況をお示ししております。

GI制度の活用により、酒類の地域ブランド化、国内外における酒類の認知度向上につながると考えているところであり、今後も積極的に普及・活用を推進してまいりたいと考えております。

総括であります。日本産酒類の輸出、あるいは、インバウンドの消費の拡大の余地はまだまだ十分にあると考えるところであり、引き続き、関係省庁の皆様方と連携し、「新たなクールジャパン戦略」を踏まえた取組を積極的に行ってまいります。

以上であります。

○守山内閣府知的財産戦略推進事務局次長 ありがとうございます。

最後に、海外発信強化の観点から、外務省より御発表いただきます。外務省、大西政務官、お願いいたします。

○大西外務大臣政務官 資料8になります。1 ページ目をお開きください。

外務省といたしましては、政府全体の取組と連携しつつ、首脳会談を含む外交機会や、在外公館等を積極的に活用して、日本のコンテンツ産業の海外転換を戦略的に後押ししてまいります。

例えば、在外公館では、日本の魅力あるコンテンツを積極的に紹介し、インバウンド需要の開拓につなげる事業を実施しております。また、日本文化を「語る」人物を外国に派遣し、日本文化に通底する思想等を深く理解してもらう講演会などを開催する事業を新たに開始しております。

国際交流基金では、多様で豊かな日本の文化芸術を世界に発信しております。2 ページ

目に記載しておりますが、昨年10月及び本年1月にエジプトとコートジボワールで開催したアニソン公演は大盛況を収め、アフリカにおける日本コンテンツへの関心の高さがうかがえました。さらに、基金による日本映画等の映像配信プラットフォームを通じた映像コンテンツの発信も強化してまいります。

さらに、ジャパン・ハウスでは、サンパウロ、ロンドン及びロサンゼルス各拠点において、漫画、地域の魅力、デザイン、日本の技術等、多様な魅力を発信する事業を企画し、日本コンテンツ発信のさらなる強化を図っております。

そのほか、首脳・外相会談や、周年行事などの外交機会を活用し、各国との間でコンテンツ分野における連携・協力を推進しております。同時に、首脳による贈呈品や対外広報において、日本発のキャラクターを活用しております。

外務省は「新たなクールジャパン戦略」の下、海外拠点の強みを生かし、今後も関係省庁、自治体、民間団体とよく連携して、日本コンテンツの魅力を発信するべく取り組んでまいります。

以上です。

○守山内閣府知的財産戦略推進事務局次長 関係省庁の皆様、ありがとうございました。

ここからは意見交換に移らせていただきます。皆様、いかがでしょうか。

特にないようでございますので、最後に、小野田大臣の御挨拶に移らせていただければと思います。プレスが入室いたしますので少々お待ちください。

(報道関係者入室)

○守山内閣府知的財産戦略推進事務局次長 よろしいですか。

それでは、小野田大臣、御発言の方をお願いいたします。

○小野田内閣府特命担当大臣（クールジャパン戦略） 本日は、我が国の経済成長の重要な原動力である、コンテンツ、食、そして、インバウンド等のクールジャパン関連産業の国際競争力強化に向けて、関係省庁間における取組状況の情報共有、そして、進捗の確認を行わせていただきました。

クールジャパン関連産業の海外展開を2033年までに50兆円とする目標を掲げている中、関係省庁が一丸となって「新たなクールジャパン戦略」「知的財産推進計画2025」を踏まえた各施策を進めていただいております。直近の数字では27兆円まで拡大するなど、大変頼もしく思っております。

さらに、本日、コンテンツ産業と地域経済の活性化の好循環を目指す地域一体となった取組について、「コンテンツ地方創生拠点」として、全国各地23拠点を選定させていただきました。

アニメ、漫画、ゲームなどのコンテンツは、海外の方が日本文化、そして、日本への訪問等に興味を持つきっかけとなっています。コンテンツが持つ世界的な訴求力を活用し、クールジャパン関連作業をさらに成長させる流れも大きくしていきたいと思っております。

オーバーツーリズム問題への対応をはじめ、地元の方々の生活に配慮する点は本当に踏

まえなくてはいけないのですけれども、本日選定した拠点の取組の強化・横展開を通じて、より一層の地方での消費拡大や地域経済の活性化につなげるとともに、地方におけるコンテンツ関連産業の振興につなげていきたいと思っています。

本日御出席の関係省庁におかれましては、「コンテンツ地方創生拠点」の取組の推進をはじめ、「新たなクールジャパン戦略」「知的財産推進計画」の着実な実施に向けて、引き続き御協力をお願いいたします。

本当にお忙しい中、今日はありがとうございました。

○守山内閣府知的財産戦略推進事務局次長　ありがとうございました。

プレスの皆様はここで御退出をお願いいたします。

(報道関係者退室)

○守山内閣府知的財産戦略推進事務局次長　以上をもちまして、第6回「クールジャパン戦略会議」を終了させていただきます。本日はありがとうございました。